

セント・アンズ・アカデミーにお越しいただきありがとうございました。このガイドブックはご自由にお持ち帰りください。これ以上必要ないという方はリサイクルのためインタープレティブセンターへお返してください。



PROVINCIAL
CAPITAL
COMMISSION

セント・アンズ・アカデミーの所有権は州政府機関が現在保有しています。現在、チャペルは宗派を超えたチャペルとして利用され、ミサなどの定期的な礼拝は行われておりません。チャペルや他のスペースは公的、私的行事などにレンタル可能となっています。

インタープレティブセンターに関する詳しい情報、またはレンタルに関する情報について知りたい方は下記までご連絡ください。

St. Ann's Academy
Provincial Capital Commission
613 Pandora Avenue,
Victoria, B.C.,
V8W 1N8

Phone: (250) 953-8828
Fax: (250) 953-8823

Website: www.bcpcc.com/stanns/
email: StAnns.Academy@gems2.gov.bc.ca

改訂2004年12月
Translation by Morihiro Nakatsuka

日本語版



セント・アンズ・
アカデミー

ツアーガイドブック



セント・アンズ・アカデミー、そしてインタープレティブセンターへようこそ。このパンフレットはセント・アンズ・アカデミーの長い歴史について詳しく記したもので、今から始まるセント・アンズ・アカデミーツアーのガイド役として非常に役立つものです。1ページごとに敷地内のさまざまなポイントの概観や歴史について詳しく紹介されています。さらに、それぞれのポイントに関して実際のセント・アンズ・アカデミーのシスター、スタッフ、そして卒業生たちがその地での思い出や感想を語っています。中には度重なる改築や修復工事によって現在は存在しないため、文章だけによる説明のポイントもあります。インタープレティブセンターとセント・アンズ・アカデミーの敷地全体の地図とこれからのツアールートは次の2ページに掲載されています。これを参考に今からのセント・アンズ・アカデミーツアーをお楽しみください。

セント・アンズ・アカデミーで静かな時間を過ごしたい方には、敷地内を散策されるか、インタープレティブセンター前にある果樹園でリラックスされることをお勧めします。このウォーキングツアーはいくぶん広範囲にわたっており、9～10ヶ所のポイントは車椅子では容易に移動できませんので、あなたの気の向くままにコースを変更、短縮してください。セント・アンズ・アカデミーの歴史に関して詳しく知りたい方は、インタープレティブセンター内に掲示されているパネルをご参照ください。建物の構造、セント・アンズ・アカデミーの歴史など何らかの疑問、質問のある方はスタッフ、もしくはボランティアにいつでもお聞きください。詳しい情報はギフトショップに販売されているさまざまな資料からも知ることが出来ます。

それではセント・アンズ・アカデミーツアーをお楽しみください！

19. 中央階段

このツアーの最後にはあなたは再びスタート地点であるセント・アンズ・アカデミーの中央階段へと戻ってきました。これまで、たくさんの方々のセント・アンズ・アカデミーでの生活がここで始まり、ここで終わったのでした。入学生たちは入学式の際にこの階段をかけたのぼり、卒業生たちは最後にこの場所でクラスメイトと一緒に卒業写真を撮影しました。修道会に入る若い女性たちにとってもここは特別な場所でした。彼女たちはここで信義と奉仕を誓ったのでした。セント・アンズ・アカデミーが1973年に閉鎖すると同時にシスター達は生活拠点を失いました。しかし、彼女たちの社会を豊かにしたいという気持ちは消えることはありませんでした。今日、インタープレティブセンターはセント・アンズ・アカデミー、ビクトリア、そしてブリティッシュ・コロンビア州の歴史を今に伝える場所として存在しています。

“私がシスターになることを決断し、母とこの階段を上っていると母が泣き始めました。すると修道院長さんが‘泣かないで。あなたの娘さんはこれから幸せになるのだから。’となくさめました。しかし、母は‘それはわかっていますが、私は悲しいのです。’と泣き続けていました。”

(匿名、生徒 1925～33、
シスター 1940～)

“この中央階段を数多くの生徒やシスター達が通りました。多くの生徒がこの階段を上りセント・アンズ・アカデミーに入学し、私たちが伝えたメッセージを胸にここから旅立っていったのでした。”

(匿名、シスター)

- セント・アンズ・アカデミーの改修の際、最も重要だった原則は定められた修復年代と歴史的に見て忠実に、そして正確に再現することでした。しかしながら、中には妥協せざるを得ない部分もありました。例えば、庭園内の木々は1911年当時はほんの苗木程度の大きさにしか過ぎませんでした。今では十分に成長し、日光をさえぎる天蓋が備え付けられています。
- この中央階段の改築も妥協の必要な場所でした。1910年から1918年の間という修復指定年代の頃、2つの応接室とチャペルへと続くこの階段は1886年に作られたバロック調の木製階段でした。その後、1924年までに時間の経過と自然環境によって木製の階段は傷み、より耐久力のあるコンクリート製へと変更されました。このコンクリート製の階段を1886年当時の木製のレプリカに再び戻すには多額の費用がかかり、また木製の階段の維持費も問題となるだろうと推測されました。。その結果、この階段はセント・アンズ・アカデミーの大きな特徴のひとつでしたが、指定された年代よりもおよそ6年後の姿に現在なっています。

18. 記念額

セント・アンズ・アカデミーのシスター達は地元のカソリック社会、そしてビクトリアの一般地域社会のメンバーでもありました。彼女たちは病院や学校での活動を通して、これらの地域社会に大きく貢献しました。そして、そのお返しとして彼らから援助を受けていました。ここにある記念額は司教ディマースを記念したものです。彼はシスター達にとって最も重要な後ろ盾の一人でした。その当時、ビクトリアはゴールドラッシュによって人口が急激に増加していました。そのため、学校や病院の必要性を感じ、セント・アンズのシスター達を説得し1858年に彼女たちをビクトリアへと連れてきたのが司教ディマースでした。彼はセント・アンズのために丸太小屋を用意し、さらに1860年にはビューストリート沿いに大きなレンガ造りの修道院と学校を用意しました。ディマースに加え、他にも数多くのセント・アンズに対する寄贈者がいました。例えば、ブリティッシュ・コロンビア最初の州知事ジェームズ・ダグラスやビクトリア・チャイニーズコミュニティのメンバーであったウォン・リーなどです。多くの点で、セント・アンズ・アカデミーはシスターとビクトリアの人々の実り多い関係のシンボルの役目を果たしていました。

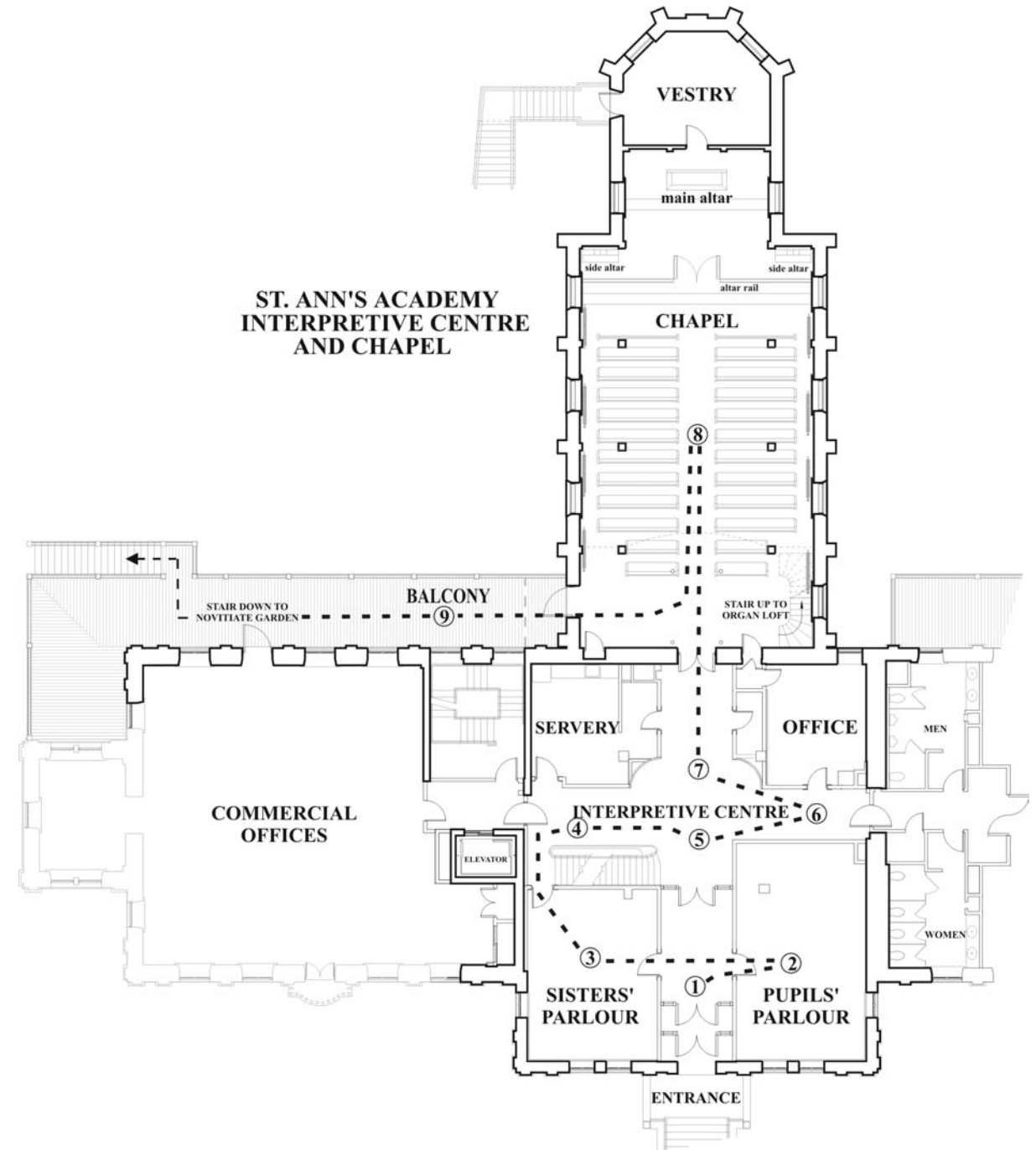
- 1871年に建設されたセント・アンズ・アカデミーの最初の部分の建設費は当時のお金で約100万円でした。1872年までの1年間に10万円ほどの寄付が集まり、基金募集のイベントを行うと約12万円が集まりました。その後、このような基金募集のイベントは毎年行われるようになりました。

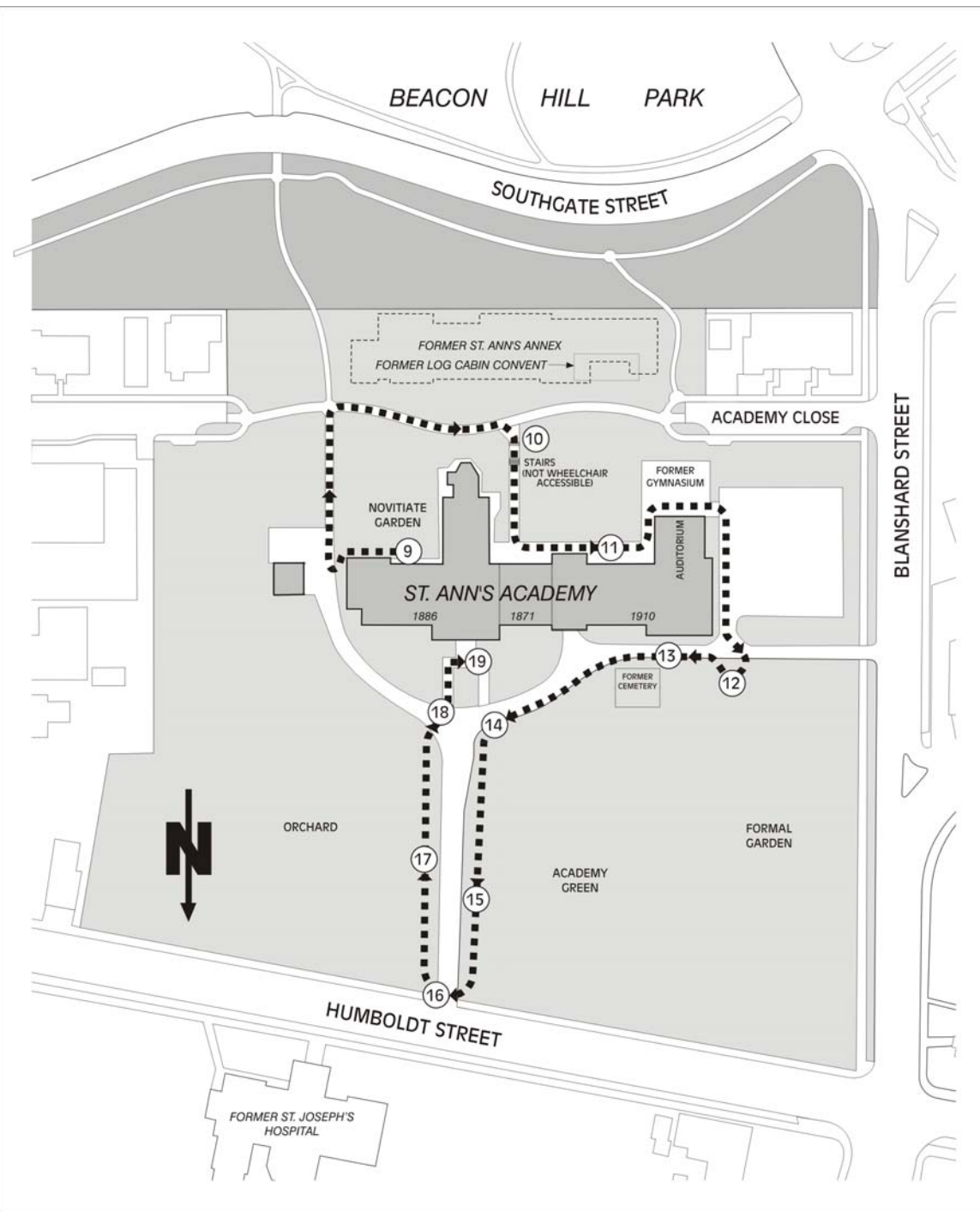
- 1997年のセント・アンズ・アカデミーの改修工事にはおよそ13億円もの工事費がかかりました。大規模な地震に備えコンクリートを強化する作業に莫大な費用がかかりました。

“司教ディマースがビューストリート沿いに2階建ての丈夫なレンガ製の建物を建築中である。この建物はセント・アンズ・アカデミーのシスター達の住宅として彼女達に寄贈される予定である。”
(ビクトリア・デイリーコロニスト新聞
1860年6月21日付)

“救済のために立派で真新しい修道院学校と孤児保護施設を兼ね備えるセント・アンズ・アカデミーのシスター達が政府に対して貧民救済の組織体系を確立するように求めている。セント・アンズほど立派で価値の高い組織は存在しないだろう。”
(ビクトリア・デイリーコロニスト新聞
1871年11月15日付)

“セント・アンズ・アカデミーのシスター達が行っている活動を考えると、われわれの街にはこのようなすばらしい教育組織が存在しているんだということに感心させられてしまう。”
(ビクトリア・デイリーコロニスト新聞
1898年6月30日付)





17. 果樹園

リンゴ、セイヨウナシ、セイヨウスモモ、そしてサクランボなどの果物が今現在も果樹園で育てられています。通りのそばに野菜もしばらくの間育てられていましたが、1960年代に生徒たちがその場所を野球スペースとして利用し始めた後、育たなくなりました。この果樹園は1871年以前にこの土地を所有していた入植者達によって植えられたものであると考えられています。それらのフルーツや野菜は第二次世界大戦の最中、食糧配給制となった頃に修道院や学校の生徒の貴重な食物となり、彼女らを空腹から救いました。学校が閉校となる最後の数年間はシスターたちだけでは管理しきれないほど多くなったため、雇われた人や時には生徒達が手伝いをしていました。

“りんごやナシの収穫のシーズンになると、多くの女生徒達が果樹園に集まりました。時には300人ほど集まったこともあり、そのときは收拾がつきませんでした。そこで知恵のある生徒たちはいったん学校へと戻り、人が少なくなった放課後にまた戻ってきていました。”

(テレサ・バセット・プライス、生徒 1961～73)

“果樹園が野球スペースとして使われたすと、果樹園の作物に影響が出始めました。”

(キャサリン・グレーブス、生徒 1967～73)

“私達は何か思い悩んだ時、美しい果樹園や庭園、散歩道をゆっくりと歩き回ったものでした。”

(匿名、生徒 1940～48、シスター 1953～80)

“セント・アンズ・アカデミーの敷地内に入るとまずこの豊かな果樹園が目に入ります。私が生徒だった頃、1つのルールがありました。それは食堂以外でものを食べてはいけないということでした。その点でこの果樹園は私たち生徒の誘惑の種でした。”

(匿名、シスター 1949～)

- この果樹園やそこに生えている木々はおそらく樹齢100年以上経過しているといわれています。ブリティッシュ・コロンビア州の植物専門家たちが彼らの専門知識を用いてさまざまな種類のりんごの品種を特定しようと試みましたが、その結果、中には一般的によく知られたグロリアマンデー、カナダレッドなどもありましたが、中には特定するのが難しく、その当時はまだ命名されていなかった品種もありました。
- ハンボルトストリートのそばにはえているもっとも大きな樹木は野生りんごの木です。通常、1本の野生りんごの木が他の植物に送粉を行う目的に植えられています。

16. ハンボルドゲート

セント・アンズ・アカデミーの前を走るハンボルドストリートの向こう側には1908アディションと呼ばれるかつてセント・ジョーゼフ病院のあった場所があります。この病院は1876年にセント・アンズのシスターたちによって建てられました。このハンボルドゲートから1871年に建築され、その後1910年までに2度の増築が行われたセント・アンズ・アカデミーの建物全体をきれいに見渡すことができます。右側(西側)に見える少し高い部分は1910フーパーアディションと呼ばれる生徒寮や教室があり、生徒たちの学校生活の中心となった場所です。この部分と中央のインタープレティブセンターの間の部分が1871年に最初に建てられた部分で、修道院と学校が収容されていました。インタープレティブセンターとその東側を含めた残りの部分は1886年に建設されました。1871年と1886年に建てられた部分には15年の差がありますが、どちらも修道士マイコードによって設計されました。彼のデザインを実行に移し、建設の現場監督となった地元建築家はチャールズ・ベレードヘン(1871)とジョーン・ティーグ(1886)でした。彼らは建築にあたり数多くのデザインの変更を行いました。特に彼らは1858年に作られたセント・アンドリュース仮大聖堂を参考にしました。その結果、1886年の建築部分のデザインは修道士マイコードの原案と大きく異なり、誰のデザインによるものとも考えられていません。しかし、それは修道士マイコードが心に思い描いていたものと同様だったに違いありません。

●初期の頃、シスターの生活場所とその他の一般生徒の活動場所との区別はグラウンドにまで及んでいました。その頃は建物前の車道がその境界線の役目を果たしていました。1960年代に入りその境界線がなくなると、生徒達が車道や果樹園で遊びだすようになりました。

●このゲートは改修の際に複製されたもので、セント・アンズ・アカデミーの公式的な行事の際の入口となっています。結婚式の際、新郎と新婦がしばしば馬車でこのゲートの前に到着します。その光景は、昔に名高い訪問客が同様に馬車でこのゲートを通して修道院までやってきていた光景に似ています。

“ハンボルドストリートを歩いていると右側にはセント・アンズのシスターたちが授業を行っているセント・アンズ・アカデミーがあり、左側にはセント・アンズのシスターたちが看護を行っているセント・ジョーゼフ病院がありました。道の両側にシスターがいることは面白いものでした。”

(匿名、シスター1939～)

“ある日突然、真新しくなった建物の壁が色あせ、新しいレンガ製の修道院ができました。それは非常に大きな建物で、子供が見るとビクトリアで一番大きな建物だと思ってしまうような大きさでした。”

(エマ・クリスモア、生徒 1874～85)

1. パーラーエントランス

少しの間、あなた自身がセント・アンズ・アカデミーの生徒であったと想像してみてください。ここは生徒たちが両親とともにセント・アンズ・アカデミーのシスターたちと初めて対面する場所でした。大きなドアとステンドグラスに囲まれたこのロビーから今日のあなたのツアーが始まったように、ここからセント・アンズ・アカデミーの生徒達の学校生活が始まったのでした。かつては修道院と女学校がセント・アンズによって運営されていましたが、現在、この建物はブリティッシュ・コロンビア州政府によって管理、運営されています。セント・アンズ・アカデミーの歴史上重要なインタープレティブセンターと呼ばれる建物前面部分を残してその他の大部分がオフィススペースとして利用するために改築されました。しかし、このインタープレティブセンターは建設当時の構造のままで保持され、1920年代当時の姿のままに修復されています。

●地元の熟練したベテラン職人たちがセント・アンズ・アカデミー、インタープレティブセンターの修復に重要な役割を果たしました。彼らは自分達の技術や経験を建物の改築に活かしました。

●建築初期の材料が修復の際にできる限り多く再利用されました。例えば、100年以上使用されていたドアの蝶つがいを取り出され、磨き直されました。原型の石こう作品は修理され、再利用されました。手製の窓ガラスが出来る限り建物前面に使われ、初期の照明装置がそのまま使われました。さらに、建設初期の鍵が応接室とチャペルの扉にそのまま用いられました。これらの部品は少なくともあと100年は使用できると考えられています。

“この建物は古く非常に歴史のあるものだから人はみな崇敬の念を持っています...”

(匿名、シスター 1938～)

“正面入り口の階段を上ってくると、きらびやかなステンドグラスのある応接室があり、美しいチャペルへと続くこのロビーは尊厳ある場所でした。”

(匿名、シスター 1929～)

“セント・アンズは私にとって特別な場所でした。なぜなら、セント・アンズはとても崇高な雰囲気を持っていたし、さらには、私たちと他のカナダの地域の人々とのつながりを作ってくれたからです。”

(メリー・ドディ・ジョーンズ、セント・アンズを守る会メンバー)

“生徒やシスターなど多くの人々と長い歴史を持つセント・アンズ・アカデミーには誠実な人間を作り出す素晴らしい雰囲気がありました。”

(ジム・スティープン、木工職人)

2. ピュービルパーラー(生徒用応接室)

この部分は1886年に建設されましたが、セント・アンズ・アカデミーの歴史はさらにさかのぼります。セント・アンズの4人のシスター達がカナダ東部のケベックからビクトリアにはじめてやって来たのは1858年6月5日のことでした。その当時、ビクトリアはゴールドラッシュの中心地として入植者が急激に増加し、学校や病院の必要性が迫られていました。そして、到着のわずか2日後、彼女たちは小さな丸太小屋で授業を始めたのでした。1860年にビューストリートにある修道院に移るまでの2年間、その小屋と別の借家がシスター達の活動の中心でした。1871年に現在の地にセント・アンズ・アカデミーが建設されてから1973年に閉鎖されるまでの約100年間、シスターたちはここで授業を行いました。

- パイプ状の暖房機がセント・アンズ・アカデミーのユニークな特徴のひとつです。もはや現在では生産されていないこの器具は修復の際、再利用されました。しかし、これが多くの問題を生じました。パイプにしばしば穴が出来て、これにより改築工事中に数多くの漏電が生じました。改築工事中、配管工たちが漏れ口を探し出す光景が何度も見られました。
- アカデミー内のすべての窓が改築の際に取り除かれ、再建されました。インタープレティブセンター内の窓は現在も建設当時、“フランス型開き窓”と呼ばれた様式になっています。この様式は当時、ビクトリアよりもケベックで広く用いられていました。一方、金属製品に関してはビクトリアで広く用いられていたスタイルで建築されています。
- 窓の修復業者は改築の際、1871年製の窓枠が1910年製の窓枠よりも良い状態であることに非常に驚きました。なぜなら、1871年製の窓枠には質の悪い木材が用いられていたからです。これは、シスターたちが建物の豪華さや壮大さにはこだわらず、節約を第一に考えていたことを象徴しています。

“私の兄が戦争から帰ってきた時、彼がこの応接室に入ってきた私を抱き上げました。だからこの応接室が非常に心に残っています。”

(匿名、生徒 1925～33、
シスター 1940～)

“ここはいつもとても静かな場所だった印象が残っています。”

(ドロシー・タブマン、生徒 1945～55)

“その当時、ここはめったに使われていなかった印象があります。ビクトリア朝様式の雰囲気のある応接室だったと思います。”

(キャサリン・グレーブス、生徒 1967～73)

15. アカデミーグリーン

1924年発行の学校会報によるとセント・アンズのシスター達が家族からのクリスマスプレゼントをテニスコートを建設するための費用を賄うために売却したと記されています。このテニスコートは庭園と中央の車道の間につくられました。このテニスコートはシスター達が生徒たちの体力を気にかけていたため作られましたが、実際はシスター達がよく利用していました。彼女たちは神聖なシスターの衣服を身にまといながらテニスを楽しんでいました。また、ここは自転車の駐輪場所にもなっていました。学校が閉校すると人気だったテニスコートはセント・アンズ・アカデミーの正面にあったセント・ジョーゼフ病院の関係者用駐車場となりましたが、後に緑地へと戻され、現在、アカデミーグリーンと呼ばれています。

“シスター達は自分たちのクリスマスプレゼント、友達や親戚からもらったおみやげ用の金塊などを売って費用を賄っていました。”

(匿名、シスター 1949～)

“‘個人的な質問を聞きたいんですけど。’と生徒から聞かれ、‘いいですよ。答えられないかもしれないけど、とにかく聞いてごらん下さい。’と私は答えました。すると、彼女は‘どうやって、あんなスカートを履いたままテニスコートを走り回れるのですか?’と言いました。私は‘全く問題ありません。邪魔にもなりませんよ。あなたもきつとすぐに慣れますよ。’と答えました。”

(匿名、シスター 1928～)

“学校が閉校となった後、テニスコートは駐車場となりました。それを知り、私は胸が引き裂かれたような思いがしました。私はあのテニスコートがいつ作られたのか知りませんが、60年代から70年代にかけてよく利用され、誰からも愛されていました。”

(キャサリン・グレーブス、生徒 1967～73)

- セント・アンズ・アカデミーの改修は植物にまで及びました。建物正面の車道に並ぶモチノキの生垣は歴史的に貴重なものでしたが、今は全て新しいものとなっています。改修工事が始まった頃は多くのモチノキは生き残っていましたが、その後、病気にかかり、枯れてしまいました。その結果、モチノキをより管理しやすく、病気にかかりにくい品種のものに取り替える決断がなされました。
- 建物正面の車道に並ぶ檜の木もまた一部は植え替えられたものです。過去、ポプラ、ツツジ、そしてヒノキが植えられていましたが、それら全てが病気の犠牲となりました。セント・アンズ・アカデミーの卒業生や地域の方々からの寄付によって購入されたこれらの檜の木はそのたくましく、病気に強い性質から選ばれました。

1 4. 記念額

セント・アンズのシスター達が現在の建物の建設を決定した時、彼女たちは自ら文化的価値の高い、豪華で美しい建物を築こうとはしませんでした。彼女たちは限られた予算の中で必要最低限のものを築き上げ、時には彼女たち目的にかなうように修正を加えながら、最終的に今あなたの目の前に広がる建物が出来上がりました。この建物とその敷地の歴史的重要性とセント・アンズ・アカデミーのシスター達のビクトリア、そしてブリティッシュ・コロンビア州への貢献度が評価され、セント・アンズ・アカデミーは州、国の両方の政府から文化的遺産の指定を受けました。

“1858年にビクトリアに最初にやってきた4人のシスターはその後の140年間に起こったことなど夢にも思っていなかったでしょう。”

(匿名、シスター 1949～)

“人間の数など文化的遺産の数に比べればはるかに多いのです。つまり、文化的遺産は人々のためにあるのです。”

(メリー・ドディ・ジョーンズ、セント・アンズを守る会メンバー)

“50年前の風景を今でも見るができるということは誰にとっても非常にうれしいものだと思います。建物の建築、改修には多額のお金がかかったと思いますが、取り壊されることなく今も残っていることは喜ばしいことだと思います。”

(ドン・バーナー、画家)

“今となっては改築も行われ非常に美しい建物だと思いますが、もしも私が改築に携われたのならセント・アンズ・アカデミーを老人のための施設に変えていたでしょう。ご存知のとおり、彼らにはそのような施設が必要なのです。”

(匿名、シスター 1949～)

- セント・アンズ・アカデミーの外観は1910年から1918年当時の姿のように改築されました。1910年から1918年という期間はセント・アンズ・アカデミーの建物全体が完成し、その姿が保たれていた期間を表しています。
- いつの年代の頃のように復元するかということは協議の結果であり、必ずしも建物すべての歴史を表しているわけではありません。セント・アンズ・アカデミーが始まって以来、全ての年代が重要であり、セント・アンズの歴史を表しているのです。なぜなら、セント・アンズ・アカデミーは長い歴史の中で非常に多くの変化を遂げてきたからです。
- 洗濯場を始めとした数多くの建築部分もかつてはセント・アンズ・アカデミーの施設の一部でしたが、数年前にすべて取り除かれ、現存していません。

3. シスターパーラー(シスター用応接室)

1973年、セント・アンズ・アカデミーの閉鎖とともに、その建物と敷地はブリティッシュ・コロンビア州政府に売却され、政府教育機関のオフィスとして使われました。一時的な裁判所として、また非営利団体のオフィスとしても使われました。1990年、土地再開発のためすべてのテナントが立ち退きました。しかし、この再開発に地元住民や活動家たちが反対し、土地再開発プロジェクトは財政破綻の後、突然打ち切られました。その後、セント・アンズ・アカデミーの今後に関して多くの意見が出されました。その協議は長引き、1995年まで続きました。そして、話し合いの結果、現在の姿となりました。

“再開発のプロジェクトが出たとき、政府はセント・アンズ・アカデミーを民営化することを含意していました。私はこれは公共施設の誤った使用法だと思い抗議することを決めました。その後、他にも私と同じ考えを持っている人が多くいると知り、反対グループを組織することを決意しました。”

(トム・ローリング、セント・アンズを守る会メンバー)

“私が最も大きな問題だと思った点は再開発の過程や、文化的遺産の扱い方や、社会正義や、土地環境の問題などではなく、ただこの神聖な場所を汚してはいけないと思ったことでした。”

(メリー・ドディ・ジョーンズ、セント・アンズを守る会メンバー)

- インタープレティブセンター内のほとんど全ての木材は樅の木のように塗装されています。昔は低賃金のため、安価な木材を購入し、それを豪華で魅力的な品種の木のように塗り上げるほうが経済的でした。インタープレティブセンターとチャペルの修復の際、これらの作業に多額の費用がかかりました
- 修復の際、木材の塗装を行った職人たちはその前に特別な訓練を受けました。実際、木材を塗装するには多くの時間がかかりますが、それほど難しいものではありません。彼らにとってより難しかったことは、以前のものと精密に同じように塗装しなければならないことでした。職人達は元のドアの写真を横に置き、それと見比べながら塗装を行いました。
- これらの応接室を当時の外観に再現する作業は現在でも続けられています。現在進行中のプロジェクトはセント・アンズ・アカデミーのシスターたちが使用していた家具と同じエドワード7世時代(1901～10)の家具の発見と入手です。セント・アンズにふさわしい家具や部品の写真付カタログが将来の購入のため作成されています。

4. セント・アンズのシスター達(信徒団)

1850年ケベックでマリー・アン・ブロンディンによってセント・アンズは創設されました。そのわずか8年後には4人のシスター達がはるか離れたビクトリアへと出発しました。その当時、ビクトリアは未発達の状態、毛皮貿易の前哨地からゴールドラッシュの中心地への変遷期にあり、金鉱と富を求めて入植者が一気に増加しました。そして、セント・アンズのシスター達がビクトリアへとやってきました。シスター達は入植者のために、またブリティッシュ・コロンビア、ユーコン、アラスカなどの先住民のために学校や病院を建設しました。その当時はこの場所はセント・ジョーゼフ教区の中心でした。セント・アンズ・アカデミーにはその本部も置かれましたが、セント・アンズ・アカデミーの閉鎖に伴い、シスター達の住宅であるベグビーストリート沿いの施設に移されました。

“私は今でもセント・アンズ・アカデミーに非常に興味を持っています。なぜなら、アカデミーはカナダ西部のセント・アンズのシスター達の中心となる場所だったからです。”

(匿名、シスター 1938～)

“セント・アンズの創設者であるマリー・アンはセント・アンズの全てのシスターに感銘を与えてくれました。”

(匿名、生徒 1925～33、シスター 1940～)

“私がシスターだった頃、私たちは‘セント・アンズのシスターとして重要なことは、あなたたちは皆同じではないのです。セント・アンズのシスターは一人一人がそれぞれ個性を持っているのです。’と教えられました。”

(匿名、生徒 1940～48、元シスター1953～80)

“セント・アンズは私たちに多くの可能性を与えてくれた場所でした。私たちは自分を成長、発展させるチャンスでセント・アンズで得ることが出来ました。”

(匿名、生徒 1948～52、シスター 1952～)

●シスター達の生活場所は先ほどの応接室を出て左側の扉の向こう側にありました。そこには通常35人ほどのシスター達が生活していました。非常に静かな場所でシスターのみが行き来できました。現在はオフィスとして使われているため、昔、生徒が立ち入れなかったように、見学者は立ち入り出来なくなっています。

●チャペル入り口付近にある2対の半身像は1850年にケベックでセント・アンズを創設したマリー・アン・ブロンディンと、その当時モントリオールの司教であったイグナティウス・バーゲットを祝して作られました。

13. 共同墓地

毎年5月になると2人のシスターが生徒の行列をこの場所へと連れてきました。これはイエス＝キリストの母である聖母マリアに敬意を表すためのものでした。この行列は庭園のそばにあった聖母マリア像のへとやってきました。そして、生徒たちは聖母マリア像に花冠をささげたのでした。シスター達の共同墓地が初めて建てられたのは1864年のことでした。場所は修道院の丸太小屋の近くで、その後1889年に移転されました。1908年以降新しい埋葬は行われませんでした。墓地はビクトリアでのシスター達の存在を思い出させるものとして残されました。1973年にセント・アンズ・アカデミーが閉鎖するとシスターの遺体はロスベイセメタリーへと移されました。

“今でも鮮明に覚えているセント・アンズでの行事は毎年5月に行われた庭園のそばの聖母マリア像での行事です。私たちは敷地内を歌を歌いながら歩き回り、自分たちで作った花冠を像のそばに置きました。今でも6歳～18歳の若い生徒たちが青空の下、美しい庭園の真ん中を歩いていた光景が目に浮かびます。”

(匿名、生徒)

“故人の遺体はロスベイセメタリーには移されず、現在そのままセント・アンズ・アカデミーに安置され続けます。彼女達の人生を私たちに思い起こさせるために。”

(協議会議事録 1912年5月18日)

“この墓地に関してはいろいろな噂が絶えませんでした。私たちははじめの頃はここが墓地だとは知らず、遺体がこの下に埋められているとか、いないとかいった噂が流れました。その後、ここが墓地で人々から敬われている場所であると知りました。”

(匿名、生徒 1940～48、元シスター 1953～80)

●インタープレティブセンターへと続く入り口付近に並ぶ2本のセコイアの木はセシーリアとアンナ・マクエイドの家族によって植樹されました。セシーリアとアンナはセント・アンズ・アカデミーの開校間もない頃の生徒で、その後2人も修道会に入ることを決意しました。しかし当時、ビクトリアには修練院はなく、2人の少女は修練のためはるか離れたケベックまで行かなければなりませんでした。

●1885年のカナダパシフィック鉄道の完成以前、ケベックとビクトリアを行き来するのは非常に困難なことでした。これが1889年にビクトリアに修道院が建設される要因のひとつとなりました。

12. フォーマルガーデン(庭園)

シスター達が1858年にピクトリアにやってきて以来、あなたが今立っているこの場所を含めて多くの場所が変化を遂げました。その昔、この庭園はジェームズベイへと流れる小川のある谷でした。しかし、1911年までにこの谷は埋め立てられて、平らになりました。その後、この良く手入れのされた花々、散歩道、生垣のある庭園がシスターや生徒たちの憩いの場として設けられました。晩年、庭園には雑草が生い茂るようになり、結局、セント・アンズ・アカデミーの閉園とともに、ホームレスや若者達のたまり場となってしまいました。セント・アンズ・アカデミーを守る活動が盛んになった後、この庭園は再生され、全ての人々の憩いの場として開かれたスペースとして管理されています。

- セント・アンズ・アカデミーの庭園はその土地を熟知していた神父ブリングスがデザイン、建築を行いました。その当時、神父ブリングスはセント・アンズ・アカデミーとハンボルドストリートをはさんだ向かい側にあるセント・ジョーゼフ病院で療養中でした。ガーデニングに非常に興味を持っていたブリングスはこの庭園のデザインを行うことを考え、それを実行に移しました。

“私はこの美しい庭園が私たちに与えてくれた効果を親愛なるシスター達が知っていたのか気になります。”
(エマ・クリスマア、生徒 1874～85)

“この庭園を生徒たちに自然科学を教えるのに非常に適した場所でした。多くの種類の木が生い茂り、生徒たちに植物学を教えるのに非常に役立ちました。”
(匿名、シスター 1938～)

“私は本当に何度もこの庭園に行きました。私は外を歩くのが非常に好きでした。時々、外を歩いている男の子たちが声をかけてきてくれたりして楽しかったことを覚えています。”
(キャロル・ボール、生徒 1947～59)

“庭園はとても広かったので、一人では手入れができませんでした。それはとても骨の折れる仕事でした。”
(匿名、シスター 1925～)

“生徒達のことを思い出すと、よくこの庭園で遊ばせたことを思い出します。彼女たちは庭園中を走り回っていました。そこには小さな見晴台があり、一番の隠れ場所となっていました。よく授業をサボった生徒たちが隠れていた場所でした。”
(匿名、シスター 1925～)

5. 修練場へと続く階段

修道院として、また学校として利用されていたセント・アンズ・アカデミーにはシスター達の活動場所と学校の一般生徒の生活場所を隔てる境界線が存在しました。修道院は人通りも少なく非常に静かな場所でしたが、インタープレティブセンターは生徒や訪問客の通行場所であり、いつでもにぎやかでした。しかし、そのインタープレティブセンターの中で唯一の例外はこの階段のある場所でした。この階段はナビスと呼ばれる若いシスター達が教育を受ける修練場へと続くものでした。ドアや床に印はつけられていませんでしたが、ここより先は一般生徒が立ち入らない場所でした。

“階段のあったこの場所はとてもひっそりとした場所でした。その階段はシスターだけが使っていたような気がします。なぜなら、そこより向こうは立ち入り禁止という認識が一般生徒たちにはあったからです。そこは、まるで修道院の一部であるかのような雰囲気でした。私はあの場所に他の場所にはない特別な歴史のようなものを感じていました。そして、私以前にこの階段を上っていたシスター達の姿を思い浮かべていました。”
(匿名、シスター 1949～)

“白色のベールをかぶった若い信徒たちが階段を上っているのを見て不思議に思っていました。彼女たちは天へと上っているのか、それともただ上に特別な部屋があるだけなのか、と。”
(匿名、生徒 1925～33、シスター 1940～)

“私たちは生徒だった頃、あのドアの向こう側に行きたくて仕方ありませんでした。”
(匿名、生徒 1950～53、シスター 1953～)

- 修復工事の際、一度この階段の手すりは全て取り除かれました。しかし、部品をきちんと分類せず取り外してしまったため、再び組み立てる際にまるでパズルを組み立てているような非常に困難な作業となりました。この作業にはたった1人の作業員が担当し、完成するまで1ヶ月以上もかかりました。
- 階段の手すりには未塗装の木材が使用されています。これはインタープレティブセンターの中では数少ない部分の1つです。一方、階段の踏み板部分には塗装された木材が使用されています。
- ベルのひもは鐘楼内のベルとつながっています。初期のベルはなくなり、その後、寄付金をもとに新しいものに取り替えられました。興味のある方はそのひもを一度引っ張ってみてください。

6. セント・アンズ・アカデミー

このホールの扉の向こう側には1871年に最初に建設された“1871ビルディング”、さらにその向こうには1910年に建てられた“1910フーパーアディション”が存在します。現在では高等教育機関のオフィスとして使用されていますが、かつては生徒寮、音楽室、教室、図書館、そして美術館と生徒たちと学校教育の中心の場となっていました。この場所で35000人以上の生徒がセント・アンズのシスターから教育を受けました。初等レベルのクラスには男子生徒もいましたが、セント・アンズ・アカデミーは少女や若い女性の教育機関として、今でも人々に記憶されています。ここで、寄宿生や一部の奨学生達は教育、芸術、音楽、商業、そしてビジネスに堪能な女性達から熱心な教育を受けていました。

●この建物の壁の板張り部分の多くの木材に独自の木目模様のペイントが施されています。最近の調査で職人たちがこの作業をとっても短時間で進んでいたことが判明しました。

●インタープレティブセンター玄関の床にも一時、同様のペイントが施されていました。1920年代、この玄関にはリノリウムという素材が使われていました。その当時、リノリウムはごく一般的に用いられる素材の1つでしたが、現在ではほとんど使用されず入手も困難となっています。そのため、当時の床とマッチするリノリウムを見つけるにはお金と時間がかかるようになりました。

“授業や修練、訓練はそれほど厳しいものではありませんでした。しかし、規則はとても厳しいものでした。なぜなら、私たちは誠実な人間になるための訓練を受けていたからです。”

(匿名、生徒 1925～33、シスター 1940～)

“私は当時、生徒ととても仲が良く良い関係を築いていました。指導部長であった年配のシスターの方からあまりにフレンドリーに接しすぎであると注意されたこともありました。”

(匿名、シスター 1946～)

“私たちは生徒たちはみな能力のある子であると信じて指導していました。数学に、科学に、彼女たちは存分にその才能を発揮してくれました。”

(匿名、シスター 1949～)

“我々の模範となっていたのは学校の校長であり病院の院長さんでした。私たちにとても素晴らしい模範となる方々がいました。”

(ダレン・サウスウェル、生徒 1956～59)

11. 運動場

セント・アンズのシスター達がケベックからビクトリアにやってきた頃、彼女たちは一般的に慈善団体のシスター達として人々に認知されていました。この表現は正確ではないかもしれませんが、彼女たちの仕事や活動を適切に表現しています。セント・アンズ・アカデミーは独立した学校として、政府からの資金援助を受けていませんでした。そのため、アカデミーの生徒は授業料を支払って教育を受けなければなりませんでしたが、裕福な人々と貧しい人々の両方に開かれた学校というセント・アンズ・アカデミーの信念の下、多くの生徒の授業料がシスター達の負担によってまかなわれました。同様に、シスター達の慈善活動は地域社会の恵まれない人々にまで及んでいました。この生徒たちの遊び場の近くにシスター達は生活困窮者のための食糧配給所を設けていました。

“経済的に授業料を支払うことが困難な子供たちは無料で授業を受けることが可能です。”

(セント・アンズ・アカデミー入学パンフレット 1858)

“私は授業料を全額支払うことができませんでした。しかし、それによって学校を締め出されるといったような何らかの差別を受けることは全くありませんでした。”

(キャサリン・グレーブス、生徒 1967～73)

“学校の裏側にあったこの運動場で友達とよく走り回って遊んだことを覚えています。遊んでいるときに、そばでシスター達が貧しい人々のために食料を配っている光景をよく目にしました。”

(ロイス・マクジー、生徒 1952～59)

“セント・アンズのシスター達から食糧を供給してもらっている生活困窮者を見ると、彼らはカンリックなのかという疑問は浮かんでこない。”

(ビクトリア・デイリーコロニスト新聞 1871年11月15日付)

●セント・アンズ・アカデミーの中に並ぶ木々の根元のほうに目をやると、小さなレンガのできた壇があります。この場所から聖母マリアはセント・アンズ・アカデミーの生徒たちが遊んでいる様子を眺めていたのです。

●芝生の端の部分にあるむき出しのコンクリートは学校の体育館があった場所を示しています。セント・アンズ・アカデミーの美術の先生をしていたシスター・オシーがこの建物をデザインしました。

●このツアーの次のポイントへと向かう途中に数枚の大きなステンドグラスが並んだ講堂を通過します。かつては生徒たちの演奏会、演劇会、また卒業式の場であったこの場所は現在、高等教育関係機関のオフィスとして利用され、またレンタル可能なスペースとなっています。

10. 丸太小屋でできた修道院

現在のアカデミーの裏側がセント・アンズの活動初期の丸太小屋でできた修道院のあった場所です。1855年司教ディマースがハドソンベイカンパニーの社員であったレオン・モレルからこの建物を購入しました。モレルの妻であったアデレードはこの直前に娘のエミリーを残して亡くなりました。その後、エミリーは1858年に最初にセント・アンズのシスター達から世話を受ける孤児となりました。セント・アンズ・アカデミーの陰に隠れがちですが、セント・アンズ・アネックスもこの場所にありました。1929年に小学校として建設され、1958年と67年の2度にわたって拡張され、1967年にはセント・アンズ・アカデミーの中等学校となりました。セント・アンズ・アネックスがなくなると、その跡地にはセント・アンズ・アカデミー、ビーコンヒルパークへと続く新しい緑地が作られました。セント・アンズ・アカデミーとビーコンヒルパークはごく近い関係にあり、ビーコンヒルパークは生徒やシスター達のアクティビティの場所としてよく利用されていました。

- 上記の丸太小屋の修道院は現在も存在しており、ロイヤル・ブリティッシュ・コロンビア博物館のそばの敷地で見ることができます。一般的に丸太小屋と表現されていますが実際の建物はポスト・オン・シルと呼ばれるスタイルです。このスタイルはケベックで広く用いられていたものです。

“私たちの‘家’であったその丸太小屋は全長10m程で、羽目板で覆われていました。外観は全てが充分な様に見えましたが、内側は外観とは大きく異なるものでした。丸太同士の継ぎ目は埋められておらず、天井板はありませんでした。小屋は2つに分けられており、その境目には2層の煙突がありました。”

(シスター・メリー・アンジェリー、シスター 1858)

“高等学校は8年生から始まり12年生までの4年間でした。上の学年と下の学年は分かれて行動し、一緒に授業を受けることはありませんでした。”

(キャサリン・グレーブス、生徒 1967～73)

“私はセント・アンズ・アネックスにいましたが、セント・アンズ・アカデミーはとても大きな建物だったことを覚えています。”

(エイリーン・リンウッド、生徒 1965～67)

“トーマス・アクィナスの日にはシスター達と一緒にビーコンヒルパークまで歩きました。”

(キャロル・ボール、生徒 1947～59)

“私達はよく英語の授業をビーコンヒルパークで行いました。それはとても楽しいものでした。”

(キャサリン・グレーブス、生徒 1967～73)

7. チャペルエントランス

チャペル入口に来ると、まず左側にはかつてシスター達の診療室がありました。もともと、この診療室とチャペルをつなぐドアが存在しました。この扉は年配のシスターや病弱なシスターがベッドから起き上がることなくミサに参加できるように配慮されたものでした。チャペルは1858年にセント・アンドリュースの教会として信徒ジョセフ・マイコードによって建てられ、その歴史がスタートしました。ビクトリア初のローマ・カソリック聖堂ですが、内部が完成したのは2年後の1860年のことでした。マイコードはこの教会で最初の聖職者に叙任されました。こうして、彼は信徒から神父になったのでした。その後、木製の小さな教会はセント・アンズ・アカデミーとハンボルドストリートをはさんで向かい側にあったセント・ジョゼフ病院へと移され、1886年にはセント・アンズ・アカデミーの建物拡張に伴い統合され、セント・アンズのシスター達のチャペルとなりました。興味深いことはかつて神父マイコードがセント・アンズ・アカデミーにもチャペルのデザインを考えていたことです。しかし、彼がチャペルを置こうと考えていた場所には応接室、診療室などが置かれました。

- かつて、セント・アンズ・アカデミーが無人だったときに不審者たちがチャペルに侵入し、チャペルドアのステンドグラスを破壊したことがありました。その後、残存した窓をもとに熟練職人たちが破損した窓を修復しました。現在取り組まれているプロジェクトは建物建設初期の窓を復元することです。

“セント・アンズのシスター達はシスターになるための教育をここで受け始め、ここで人生を終えたのでした。なぜなら、セント・アンズにはシスターのための診療室があったからです。シスター達にとってセント・アンズ・アカデミーは人生の初めと終わりを迎える場所でした。”

(匿名、シスター 1938～)

“年配のシスター達は周りの人々とおしゃべりするのが大好きでした。彼女たちは診療室にいましたが、ミサの時間用にチャペルへと続く扉がそこにありました。”

(匿名、シスター 1929～)

“建物が完成すると、この教会はビクトリアで最もすばらしく、尊敬に値する場所の1つとなるだろう。そして、神父マイコードの技術と感性を反映したものとなるだろう。”

(ビクトリア・デイリーコロニスト新聞
1860年11月23日付)

8. チャペル

セント・アンズ・アカデミーはその長い歴史の中で変化を遂げてきました。しかし、カソリック教育の中心としての役割はその間も変わることはありませんでした。このチャペルはその役割を最も象徴したものです。当時、信徒であったマイコードはこのチャーチを当時ケベック郊外にあった教会を参考にデザインしました。1960年代、カソリック教会はヴァチカン2世による変遷の高まりに伴って、邪魔者扱いされました。その結果、多くのチャペルの外観が現代化されました。装飾は単一化され、祭壇や手すりを取り除かれ、全ての空間が薄暗いグレー色に塗り替えられました。後に1973年にセント・アンズ・アカデミーが閉鎖されると、このチャペルはその犠牲となるかたちで放置されました。しかし、1920年代当時の姿のように改修されて以来、現在までチャペルは宗派を超えたレンタル施設として結婚式や、その他の行事に利用されています。

●文化的遺産修復に関する専門家たちは過去の書類や写真を入念にチェックし、修復に指定された年代である1910年から18年の頃の姿に修復するために詳細な分析を行いました。

●祭壇などチャペル内のいくつかの部分は初期のものが無くなり、レプリカがつけられました。他の部分は初期のものと同様形のもの代用されています。

●祭壇の手すり付近まで行き、チャペルの後ろ側を見上げるとパイプオルガンを見ることができます。1913年にシスターによって購入されたこのパイプオルガンは状態もよく結婚式でもよく利用されています。

“午後になると、私たちはチャペルの中に入り太陽がステンドグラスを照らしている風景を眺めていました。その光景はとても美しく、私たちに安らぎを与えてくれました。”

(メリー・フラナガン、生徒 1926～37)

“私たちはよくチャペルにいき、祭壇の近くで誓いを行いました。”

(匿名、寄宿生 1936、シスター 1939～)

“全てのシスターは祭壇や、建物のほかの部分が無くなってしまふ光景を見たくありませんでした。”

(匿名、生徒 1925～33、シスター 1940～)

“チャペルの壁全体が緑色のまるで藻のような色に変えられてしまったことは非常に残念なことでした。”

(メリー・ドディ・ジョーンズ、セント・アンズを守る会メンバー)

9. バルコニー/ノビシエートガーデン

このバルコニーはシスター達の生活場所の拡張部分で、ここからノビシエートガーデンが見渡せます。1889年にセント・アンズに修練場が完成したことで地元の女性たちはわざわざケベックまで行く必要がなくなり、負担が大幅に軽減されました。さらにケベックではフランス語が主言語であるため、英語を主言語とするシスター達にとっても貴重な修道院となりました。ノビシエートガーデンは若いシスター達の気晴らしの場所でしたが、そこでも年配のシスター達が目を光らせていました。1968年にセント・アンズの修道院は閉鎖され、クイーンズウッドハウスにあるシスター達の新しい施設へと移されました。その頃、教会と一般社会の間に大きな変化が生じ、その結果、多くのシスター達が宗教的な暮らしをやめ、一般社会へと復帰しました。その後、修道会への加入を選択する女性は少数となりました。現在では、ノビシエートガーデンに1925年当時の見晴台が再現され、緑に囲まれたこの庭園ではチャペルと同じく結婚式がとり行われています。

●チャペルに最も近い2枚のバルコニーの窓を見てみると、真新しいコンクリート構造の吹き抜けがあります。これはセント・アンズ・アカデミーの初期の屋根やレンガ造りの前面を支えるためのものです。

“セント・アンズでの時間は人生を豊かにしてくれる最高のものでした。他にそのような組織はありませんでした。だから、私はシスターになることを決断しました。”

(匿名、シスター 1949～)

“私は1946年にケベックにある修道院に入りました。その時、私は18歳でした。今でも私は神様が私を呼んでくださったのだと思っています。”

(匿名、シスター 1946～)

“ノビシエートガーデンには休憩用の大きな小屋がありました。そこでよくリラックスしたり、時には縫い物などをしたりしていました。”

(匿名、シスター 1928～)

“私たちは常に注意を払っていなければなりません。なぜなら、人々がチャペルで神に祈りを捧げているときに騒がしくしてはいけなかったからです。”

(匿名、生徒 1948～52、シスター 1952～)

“セント・アンズに入ったことがごく自然なことであったように、セント・アンズを離れることも私にとってはごく自然なことでした。私はシスターであることが自分にはもはやふさわしくないと考えたのでした。”

(匿名、生徒 1957～63、元シスター 1964～69)

“私は今でもセント・アンズを離れるときに書いた手紙のコピーを持っています。”

(匿名、元シスター 1964～69)